

かいほ ジャーナル



愛します! 守ります! 日本の海

Vol. **72**

2017 AUTUMN



特集

第十一管区海上保安本部 那覇海上保安部 名護海上保安署

地域とつながり
やんばるの海の
安全と安心を守る

海上保安庁
JAPAN COAST GUARD

かいほ ジャーナル

C O N T E N T S



Vol. **72**
2017 AUTUMN

PHOTO GRAVURE

- 1 西之島の海図を発行 ～我が国の管轄海域が約50km拡大～
- 1 九州北部豪雨への対応
- 2 日露海上警備機関長官級会合を4年ぶりに開催
～日露海上警備機関の連携協力の重要性を確認～
- 2 練習船「こじま」世界一周から帰港
- 3 第一回海上・臨海部テロ対策協議会の開催
- 3 海上保安資料館横浜館「300万人」達成!!
- 3 水難事故防止を目指し官民が連携した初めてのシンポジウムを開催

[特集]

第十一管区海上保安本部 那覇海上保安部 名護海上保安署

- 4 **地域とつながり
やんばるの海の
安全と安心を守る**

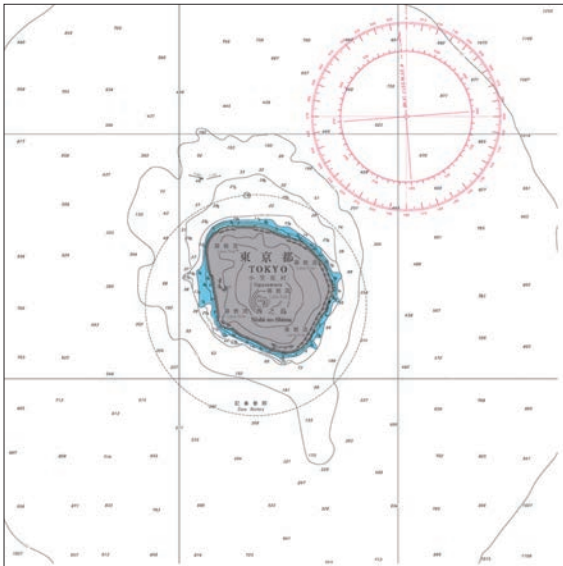
TOPICS

- 10 **名護 エトセトラ** ～特集では伝えきれなかった名護をここで～
- 12 **NEWSFLASH** ニュースフラッシュ

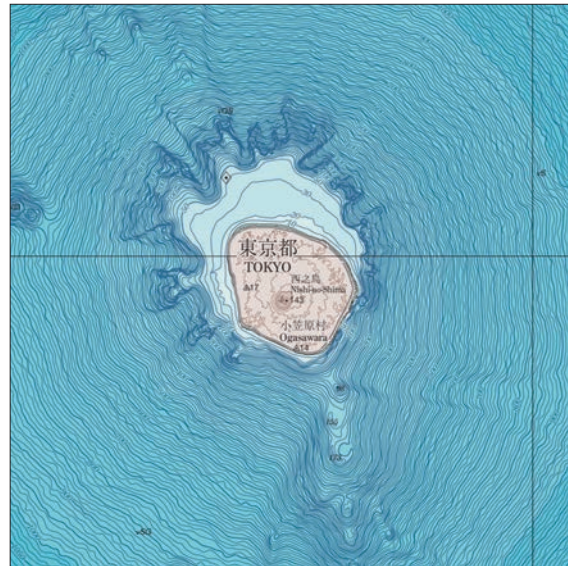
裏表紙

INFORMATION

第24回定期演奏会 海上保安庁音楽隊



海図



海底地形図

平成29年6月30日、西之島の水路測量成果を基に作製した海図及び海底地形図を発行しました。

平成25年11月に火山活動を始めた西之島は、これまでに噴出した溶岩等により噴火前より大きく拡大しました。これにより我が国の管轄海域の面積が約50km²拡大したことになります。拡大した西之島が記載された海図は、管轄海域拡大を示す国際的な根拠となります。また、海底地形図は、10m間隔の等深線と彩色により火山島である海底の地形を詳細に表現しています。

今年4月に新たな噴火が確認されたことから海上保安庁は、今後も海上交通の安全を確保しつつ監視を続け、噴火活動が沈静化し、安全が確認された後に改めて水路測量を行い海図及び海底地形図を更新する予定です。

※ 領海と排他的経済水域（EEZ）を合わせて「管轄海域」としています。

Photo Gravure



西之島の海図を発行
我が国の管轄海域が約50km²拡大



Photo Gravure



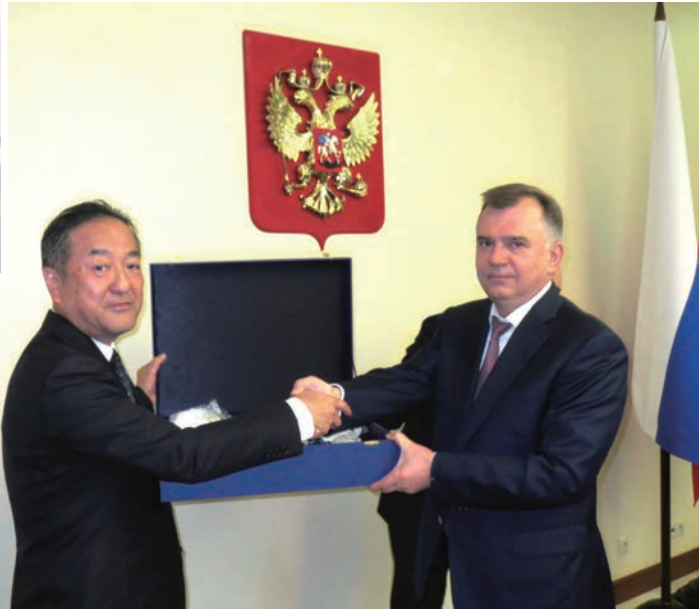
九州北部豪雨への対応

海上保安庁は、台風3号及び梅雨前線による6月30日からの九州北部における豪雨災害に対応してきました。

これまでに延べ巡視船艇61隻、航空機61機、特殊救難隊員16名、機動救難士38名を出动させ、孤立集落から計40名を救助したほか、行方不明者の捜索、有明海や沿岸・港湾部における被害状況調査を実施しました。

また、航行警報及び海の安全情報を発出し、付近船舶等へ情報提供を行いました。

日露海上警備機関長官級会合を4年ぶりに開催
日露海上警備機関の連携協力の重要性を確認



中島 海上保安庁長官

クリショフ ロシア連邦国境警備局長官

7月12日、ロシア連邦モスクワにおいて、日露海上警備機関長官級会合を開催しました。本会合は、平成12年9月に締結した「日本国海上保安庁とロシア連邦国境警備局との間の協力の発展の基盤に関する覚書」に基づき開かれたものです。中島敏海上保安庁長官とクリショフ ロシア連邦国境警備局長官は、日露当局間の良好な関係を維持・発展させていくことを目的として、本庁から地方までの様々なレベルにおいて緊密な連携をはかることで合意しました。

練習船「こじま」世界一周から帰港



8月2日、練習船「こじま」は、専攻科実習生35名（女性5名）、国際航海実習課程研修生1名、乗組員41名を乗せ、世界一周の遠洋航海を終え、広島県呉市に帰港しました。

今回の航海では、4月28日に呉を出港した後、ホノルル、コスタリカ、ボルチモア、マルセイユ、シンガポール、マニラの5ヶ国6都市に寄港し、総日数97日間、総航程約25,000海里（約46,300キロメートル）に及びました。実習生等は皆、各寄港地にて各国の海上保安事情を学び、施設見学やレセプション等の交流を通じて国際感覚を磨き、長い航海を通じて大きく成長した姿で帰ってきました。

第二回海上・臨海部テロ対策協議会の開催



7月12日、海上・臨海部のテロ対策に関し官民一体となって検討するため、国土交通省関係各局及び海事・港湾関係業界団体が参画する「第一回海上・臨海部テロ対策協議会」を開催しました。

第一回協議会では、テロ警戒等に関する講演を基に、テロ対策の知見を共有したほか、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会も念頭に、具体的な海上テロ想定シナリオについて各事業者が実施するテロ対策の議論・検討を行いました。

次回以降の協議会においては、更に議論を深め、各事業者が実施するテロ対策の実効性の向上を目的とした自主警備マニュアルを策定するなど、より一層テロの未然防止に繋がる取組を実施することとしています。



6月11日、海事局及びJBWSS連携協議会との共催により「水上安全と安全運航に関するシンポジウム」(JBWSS: Japan Boating & Water Safety Summit) を開催しました。

本シンポジウムでは、舟艇及び水上安全等に関わる官民の団体が集い、水難事故の防止に関するそれぞれの活動内容について講演を行い、水上安全と安全運航に関する情報発信と共有がなされました。

水難事故防止を目指し官民が連携した初めてのシンポジウムを開催



7月11日、海上保安資料館横浜館(神奈川県横浜市)の来館者が300万人を達成しました。資料館では平成13年12月に発生した九州南西海域不審船事件の工作船及び回収物を展示しています。

これからも国民の皆様到我国を取り巻く周辺海域の現状と海上警備の重要性などを伝えていきます。

海上保安資料館横浜館「300万人」達成!!



体験航海への参加客を乗せ、名護漁港を出る巡視艇「なごづき」。陽射しは強いものの、穏やかな波に恵まれたクルーズとなった。

沖縄本島北西部 やんばる地方を担任

「やんばるの森」と呼ばれる沖縄本島の北部は、豊かな自然に恵まれた地域だ。その西側、名護市から時計回りに本部町、今帰仁村、大宜味村、そして沖縄島の北端である国頭村までを管轄しているのが、名護漁港に拠を構える第十一管区海上保安本部那覇海上保安部名護海上保安署である。署長1名、次長1名、職員が2名という小規模な体制で、配備されているPC型巡視艇「なごづき」は1クルーの定員10名、これを2クルー制で運用している。また、近場での事案対応には、小回りの利く監視取締艇「はいむる」が活用されている。

その担任水域について名護海上保安署を率いる栄和志署長は、「伊江島や伊平屋島、伊是名島などの離島もあつて広く見えますが、広大な第十一管区海上保安本部の担任水域からするとほんの一部です」と説明する。

さらに言えば、石垣海上保安部であれば、尖閣警備といった重要業務を抱えるが、名護海上保安署はそういった専任業務を持たない。管内に重要設備もほとんどなく、担任水域も沿岸部を中心とした領海内に限られている。

「マリレジャーが盛んで日本を代表するような大きなマリリゾートもある地域ですから、マリレジャーに関わる事業者は多数います。一方、地域産業としては漁業が盛んですが、県を代表する糸満

体験航海を終えて船を降りる。参加客に笑顔がこぼれる(上)。体験航海の前に、名護市商工会から送られた花を受け取る尾崎船長(中)。45分間のクルーズ中、ほとんどの参加客はデッキ上に留まっていた。



特集 第十一管区海上保安本部 那覇海上保安部 名護海上保安署

地域とつながり やんばるの海の 安全と安心を守る

沖縄本島北西部の海を担当する名護海上保安署
豊かな自然に恵まれ、海の観光客が多いこの地で、
警察や消防、漁協、事業者らと連携を図りながら
地域と共に海の安全と安心を守っている

取材・文/中島 敦 (オンサイト)



名護保安署で2年目を迎えた栄和志署長。「名護の良い点は職員との距離が近いこと。署長室のドアはいつも開いていますし、いつでも入ってきていいから、と職員に声をかけています」

「この部署でも地域に密着することは重要ですが、小規模であればあるほど、その必要性は高いといえます。うちも小さい、周りも小さい。だからこそ連携して効率的に業務を進めることを意識しています」
この方針をより明確なものとするために、今年4月、栄署長は赴任2年目を迎えるにあたって名護海上保安署の現状と課題をまとめたプレゼンを作成し、今年

漁港は島の南部にあり、港の規模は比較的小さいと言えるでしょう。
第二種の名護漁港を除けば他はすべて第一種の小さな港ばかりですし、開港がないため外国船が直接入ってくることもありません」と栄署長は説明し、密漁等の地域の犯罪や、海浜事故への対応を重点業務として掲げた。また規模が小さいからこそ、地元の警察や消防、漁協、そしてマリレジャー事業者など、地域と連携することが必然になる、とも。





国頭漁協の組合員と共に、夜の海岸線を密漁パトロールに回る名護海上保安署の職員。ミーティングでそれぞれ巡回する地域を確認し(左)、互いに連絡を取り合いながら暗い海岸線を調査する。(右)



地元漁協と連携しての密漁対応

度の業務の遂行方針について職員に自ら説明した。「職員は私の考えをよく理解しています。「なごづき」も例年以上に積極的なパトロールや巡回を行ってくれており、先日もある漁協の組合長から「最近巡視艇や海上保安官をよく見かけるようになった」に感謝している」という言葉をいただきました。関係機関とも非常に良好な関係を維持しています」と語る。

名護海上保安署が実際に地域と連携して行っている業務の一例として、漁協と共に密漁パトロールが挙げられる。密漁者が集まりやすいポイントを熟知している漁協組合員と同行することで、より効果的にパトロールを行うことができる。うえに、漁協組合員にとっても海上保安官の存在は心強い。

取材当日の夕刻、予め決められた集合場所に集まった国頭漁協組合員と名護海上保安署職員は、ブリーフィングの後に、それぞれの車に分乗して海岸沿いのルートを辿って行った。

「この時期はイセエビの密漁者が多い」と説明するのは巡視艇「なごづき」の浜村淳機関長だ。職員2名と共に夜道を進みながら所要所で速度を落とし、あるいは車から降りて付近の海岸や海面に怪しい動きがないかを確認していく。パトロールに気付いた密漁者は獲物を海に捨て証拠隠滅を図ることがあるため、相手に気付かれないよう、細心の注意を払ってパトロールを続ける。この日は夜半過

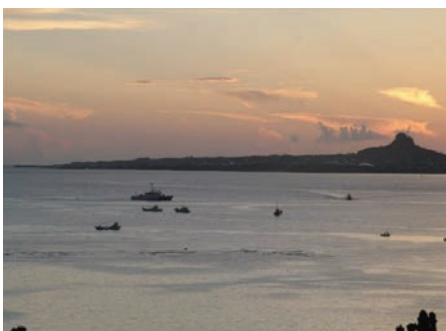
ぎまでパトロールを実施、こういったパトロールを日常的に、昼夜問わず行っているという。

他機関との連携での変わった例としては今年6月、ヘリコプターを使った救助活動時に発生する強風がどのようなものかを知ってもらうため、ダウンウォッシュ体験を実施した。これは実際の救助現場でヘリコプターの強風を受けた警察職員から、あまりの強風にヘリコプターに離れるよう要請されたことに端を発する。

沖縄県警はヘリコプターを2機保有しているが、吊上げの実績はほとんどなく、また沖縄県は消防防災ヘリコプターを持たないため、関係機関にはエアレスキューの経験を持つ職員がほぼ存在しないからだ。そこで、ヘリコプターが降下して行う救助の状況を再現して実際にダウンウォッシュを体験してもらった。初めてダウンウォッシュを体験した消防職員からは「想像以上に強い風だった」という反応があったといい、今後救助現場でのよりスムーズな意思疎通に繋がることだろう。

その他、一般市民との繋がりととしては今年4月及び6月に沖縄県ウォータークラフト安全協会と合同でパトロールを実施。パンフレットの配布や安全指導・啓発活動を通じてマリンスポーツ愛好家に事故防止を呼びかけた。7月には沖縄県で最大の花火大会が海洋博公園で開催され、洋上に巡視艇「なごづき」を配備しての海上警戒を行った。

取材時にはもうひとつ、名護夏まつり



海洋博公園花火大会に伴う警戒を行う巡視艇「なごづき」。後方に見えるのは伊江島の城山(通称:伊江島タッチュー)



沖縄県ウォータークラフト安全協会との合同パトロールでは、ビーチを訪れた人々に事故防止を呼びかけた。



警察・消防との連携強化を図るため三機関連絡会議を実施、合わせてダウンウォッシュ体験も行った。

「石垣では最前線にいることを実感 幅広く経験を積んでいきたい」

専門学校に入るまでは海上保安官という仕事のことを知りませんでしたが、海上保安官の仕事について調べるうちに救難や警備、交通といった多様な業務があることを知り、それに惹かれて海上保安庁を目指すようになりました。初任地は石垣海上保安部の巡視船「よなくに」でしたが、入った時がちょうど尖閣諸島周辺海域での領海警備業務が忙しくなった時期と重なりました。大変ではありましたが勉強になったし、やりがいを感じることもありました。中国公船に対応するわけですが、その対応の仕方もそうでしたし、こちらから相手に無線で呼びかけたりと、まさに最前線での業務でした。そういった面で「ああ、仕事をしているな」、「最前線でやっているんだな」と、やりがいを感じることがあります。

名護に来て初めて警備業務にも携わるようになりました。回数は多くありませんが、救難業務も経験することができました。まだ経験はしていませんが環境に特化した業務もありますから、何かひとつに決めるのではなく、これから色々経験していきたいと思っています。

「これからも警備・刑事一筋 将来は自分の知識を部下に伝えたい」

沖縄水産高校の専攻科で機関科の3級海技士免許を取得し、沖縄県の警察艇の乗組員として働いていました。自分の仕事は船の運航でしたが、隣で悪い人を捕まえる警察官の姿を見て憧れを感じ、自分の船の免許を生かせる海上保安庁に入りました。

初任地では1年半、大型巡視船の「うるま」に乗船しました。その後に巡視艇「なごつき」です。ここでは自分が思っていたとおりの警備・刑事の捕まえて、取り調べして、検察庁に送致するという仕事に携わっています。初めての取り調べでは、相手からの反論に戸惑いました。この時は先輩がサポートしてくれましたが、自分の知識の無さが招いた結果だと反省し勉強に打ち込みました。2回目からは一人でもなんとか取り調べできるようになりましたし、そういう意味では最初の取り調べの相手に感謝したいぐらいです。

今後も目指すのは警備一筋です。将来は巡視艇の機関長になって、部下に自分の警備の知識を伝えていきたいと思っています。



名護の海を守る海上保安官

「楽しい海にも危険があることを知り 海上保安官への道を目指しました」

中学生の頃、普段からよく遊んでいた漁港で人が亡くなる事故がありました。そこで海上保安官が対応している姿を見て、いつも遊んでいる海にも危険な面があるんだということを感じたのと、楽しい海をもっとみんなで楽しめるように危険もあることを知らしめたいと思ったのが海上保安官を目指すきっかけとなりました。

入庁する前は映画「海猿」のような救難業務が主な仕事だと思っていましたが、海上保安学校では海の法律も学び、実際には救難業務だけではなく警備業務も幅広くあることを知りました。

この船に来て警備業務に携わる機会が多くなり、先輩方に指導いただいています。難しいことばかりです。刑事分野に携わり、救難業務だけでなく警備業務の面白さを経験しています。書類作成は大変ですが、取り締まりの楽しさも分かってきたので、さらに法律を勉強して一人前になれるよう頑張ります。

自分は救難業務をイメージして海上保安官になりましたが、この仕事には多くの選択肢があります。まず海上保安官になり、組織をよく見てから方向性を定めるのもいいと思います。

「日々成長する自分を実感 小型の巡視艇で警備救難業務に携わりたい」

海上保安官のことを知ったのは小学生の時の体験航海です。高校を卒業して専門学校に通い、警察、消防、海上保安庁に興味を持ちましたが、中でも捜査から救助まで幅広く業務に携わることができる海上保安官に魅力を感じこの道を選びました。

最初は巡視船「くにがみ」に配属され、ここでは尖閣諸島周辺海域での領海警備が主な業務でした。救難業務に携わることもほとんどなく、より警備救難に携わりたいと思い巡視艇の「なごつき」を希望して名護に来ました。ここでは想像していた以上に多くのことを経験でき、忙しい中でも日々成長する自分を感じています。立入検査の経験も増えました。最初は何を話したらよいのかもわからず、先輩の後ろについているだけの状態でしたが、こちらに来てどんどん立入検査を経験するようになって、物怖じせず積極的に話しかけられるようになりました。そういった点で成長したなど自分で感じていますし、今携わっている警備救難業務でさらにスキルアップして、今後はもっと小さいCL型の巡視艇で警備救難業務に携わりたいです。



花火大会の警戒に出る監視取締艇「はいむる」。花火観覧に来た船が危険区域に入ったり、接近し合うのを防ぐ。

で開催された花火大会の警戒も行った。名護漁港に監視取締艇「はいむる」を配備するだけでなく、尾崎直樹船長が大会本部に詰め安全な大会運営に協力している。花火大会の喧騒は名護漁港に停泊する巡視艇「なごづき」にも届き、夜空に上がる花火を目の当りにすることができた。洋上の監視取締艇「はいむる」は危

険区域への船の立ち入りを防ぎ、また、混雑する海上の安全指導に努めていた。

祭りを主催する商工会のスタッフは「この祭りは県外から若い人が帰ってきて顔を合わせることも多く、とても賑わいます」と説明したが、その言葉どおり、数々の露店や出し物が出揃い、規模の大きさをさせる一方で、行き交う人々がここで言葉を交わし合い、地元の人々の密接な繋がりを感じさせる光景だった。

「なごづき」体験航海の実施

この花火大会の翌日には、名護夏まつりの一環として巡視艇「なごづき」の体験航海が実施された。受付場所にはうみまる、うーみんの人形や、海上保安官の制服などを展示。また、乗船のための通路におもちゃの花が飾られるなど、この体験航海に参加する人をもてなそうという名護海上保安署職員の細やかな配慮が表れていた。

午前と午後の計4回、それぞれ45分ほどのクルーズに参加した参加客は、穏や



総務から人事、厚生、経理、補給、情報通信といった管理業務を担当する宜寿次卓矢署員は地元名護市出身。人手が足りないときはオペレーション業務に入ることも。海上保安学校の募集に地元の高校を回ったりと、広報にも積極的(上)。警備、刑事、救難、環境防災、海洋、交通と実務全般を受け持つ平憲人署員は、パトロールに出る時も取り締まりだけでなく、関係各所に小まめに顔を出し、ネットワーク作りを心がけている。「小規模部署はひとりが受け持つ業務が多く、幅広い知識がないと仕事が回らないのが難しいところですが、色々な人と繋がりが持てるのがいい点だと思います」と語る。

かな名護湾を進む巡視艇「なごづき」のデッキから思い思いに海上の景色を眺め、心地よい海風を満喫した。子供連れの家族で、夫婦で、友人と連れだって。それぞれに参加した人達に笑顔がこぼれ、体験航海は和やかな雰囲気包まれていた。海上保安官をめざすきっかけとして「体験航海」を挙げる職員も少なからずいる

ことから、こういった催しは一般の人々に海上保安官の姿を身近に見てもらいたい機会と言えらるだろう。

海上保安学校を卒業した職員は、まずは大型の巡視船に乗って船務や業務の基礎的な経験を積み、その後には小型の巡視艇で様々な警備救難業務にあたるケースが多く、そこで多くの密漁の取り締まりや海難救助といった事案に取り組むことになる。栄署長は、「こういった業務は、言わば海上保安官にとって根幹業務です。その実務経験を求めて名護海上保安署を希望する職員も多い」と説明する。小さい部署であるが故に、ひとりひとりの職員が幅広く、多彩な業務経験を積みことができる環境が、ここにはある。

「若い職員がここ名護で育ち、次へと羽ばたいて欲しい」と、栄署長は言葉を結んだ。



名護夏まつりの夜。名護漁港に停泊する巡視艇「なごづき」の上空を花火が彩る。



年に一度開催される名護夏まつり。巡視艇「なごつき」の遠方には、祭りで賑わう人々の姿が。名護海上保安署は、花火大会での警戒だけでなく、体験航海を実施するなど積極的に祭りに関わって地域と繋がり、地域の安全と安心を守っている。



名護 エトセトラ

特集では伝えきれなかった名護をここで

画像提供：沖縄観光コンベンションビューロー、
名護市観光協会、Tour de Okinawa

名護市長杯争奪全島ハーリー大会



「ハーリー」とは、海人（うみんちゅ）が豊漁や海の安全を願って行う祭りのことで、「サバニ」と呼ばれる沖縄の伝統的な漁船を使ってレースが行われます。名護漁協で開催される名護のハーリー大会は県内最多の180チームが参加する一大イベント。別名「ハーリー甲子園」とも呼ばれています。

名護市役所



独 特な外観が目を引き、名護市役所。くすんだ赤とグレーの2色を基調とし、屋根や壁面に穴あきブロックを多用して風通し良く、直射日光を避けるよう設計されています。設計したのは『象設計集団』で、第33回日本建築学会賞作品賞を受賞しました。壁面には数多くのシーサーが飾られています。



ブセナ海中公園



海 中公園区域に位置するブセナ海中公園。周辺の海域にはカラフルな熱帯魚やサンゴが多数生息しています。服を着たままで美しい海中の風景を楽しめる海中展望塔では、360度の視界で海中を観察することができます。

21世紀市民ビーチ



ス ポーツ施設が複合的に集まっている名護市の21世紀の森公園内に設けられた人工ビーチ。広大な砂浜が2ヶ所あり、ビーチの美しさとアクセスの良さで人気のスポットです。

ネオパークオキナワ



ネ オパークオキナワ（名護自然動植物公園）では、沖縄の気候を生かして中南米やオセアニア、アフリカといった熱帯地方の動植物を保温なしに、しかも放し飼いで飼育しています。運が良ければヨーロッパのフラミンゴが飛ぶシーンに遭遇することも！

古 来、沖縄で飼育されてきた黒豚をアグーと呼んできましたが、明治後期以降に西洋種が導入・増殖され激減してしまいました。1981年からの全県的な調査で約30頭を確認し、その内の何頭かから交配を繰り返して元の形質を備えた在来のアグーを復活させました。

アグー豚



ツール・ド・おきなわ

名 護市を中心に沖縄本島北部を走る自転車ロードレース。最上級クラスの「チャンピオンレース」は、国内のみならず世界の強豪選手もこぞって参加する有数のレースです。市民レース部門最長となる210kmクラスは、全国から強豪が集まるホビーレーサーの憧れの目標となっています。



名護城跡



名 護中央公園にある名護城跡は、14世紀初期にこの地を治めていた名護按司（あじ：領主的豪族）の居城といわれています。寒緋桜の名所としても有名で、約2万本もの寒緋桜が濃いピンクの花を咲かせ、桜祭りが開催されます。



第四管区

四日市港開港118年を記念し、
ペーパークラフトで四日市燈台を再現！

四日市保安部

8月4日



第一管区

昆布漁船237隻、
青空のもと一斉出漁！

根室保安部

6月13日



第五管区

幼稚園の行事「花の日」に
感謝の気持ちを込めて、
園児から職員に花束贈呈

土佐清水保安署

6月6日



第一管区

「子ども記者」が
巡視船ほろべつを取材

小樽保安部

6月11日



第六管区

MAZDAスタジアムにて
潜水士やうみまる達がダンスで
海保PR及び海の安全推進活動実施！

六本部

7月28日



第二管区

震災の復旧・復興を願い、
第70回塩竈みなと祭
二本部職員が陸上バレード参加！

二本部

7月17日



第七管区

「大分うみまる劇団」始動。
子どもたちに環境保全を伝える

大分保安部

6月1日



第三管区

機動防除隊の「回転翼機からの降下及
び吊り上げによる業務」がスタート！

横浜機動防除基地

7月10日



敦賀保安部
新日本海フェリー「すずらん」船内で
敦賀警察署と合同テロ対処訓練実施
7月31日



新潟保安部
新潟市初、ライフセーバーとの
酔泳撲滅合同パトロールを実施
8月3日



種子島保安署
昨年開所の種子島海上保安署、
地元西之表市最大のイベント
「種子島鉄砲まつり」のパレードで海保PR
8月20日



石垣保安部
巡視船いせなに白い珍客来船
数十羽のサギが羽休め
6月6日



海上保安学校
第66回海上保安大学校学生祭
「海神祭」開催！
6月10日・11日



海上保安学校
海上保安学校ビッグイベント
「五森祭」を盛大に開催！
7月2日



門司分校
現場赴任に向け体力検定実施。
最年長54歳も頑張っています！
6月3日



本庁
霞ヶ関見学デーで
海上保安庁の仕事紹介
8月2日・3日

大学校

学校

学校

本庁

第24回 定期演奏会 海上保安庁音楽隊

平成29年
11/8 水
開演：午後7時（午後6時開場）

東京芸術劇場コンサートホール

東京都豊島区西池袋1-8-1

JR線・東京メトロ丸ノ内線・副都心線・東武東上線・西部池袋線
池袋駅西口より徒歩2分（駅地下通路2b出口直結）

※ご来場の際は公共交通機関をご利用下さい。

指揮

稲垣征夫

（海上保安庁音楽隊技術顧問）

演奏
予定曲

- 行進曲「黒馬騎兵中隊」
- イーストコーストの漁師の歌
- 「君の名は。」コレクション



■申し込み方法 はがき、インターネットのいずれかでお申し込みください。

はがき応募

ㄖ切：10月2日(月) 必着

通常はがき裏面に代表者の郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、年齢、応募のきっかけ及び同伴者（希望する場合1名のみ）の氏名（ふりがな）、年齢を記入の上、下の要領でお申し込みください。
※往復はがきではありませんので、ご注意ください。

郵便はがき

1 0 0 8 9 7 6

定期演奏会係

東京都千代田区霞が関2の1の3
海上保安庁 政策評価広報室

〇〇〇〇〇〇

【おもて】

【うら】

※必ずご記入ください。

- 郵便番号
- 住所
ふりがな
- 氏名(代表者)
- 年齢
- 応募のきっかけ
(例:チラシ、雑誌「〇〇」等)

※同伴者を希望する場合のみ
ご記入ください。

- 氏名(同伴者・1名)
- 年齢

インターネット応募

ㄖ切：10月2日(月) 午後6時

海上保安庁ホームページからご応募ください。

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/info/teien/>

- ▶応募は、お一人様1通のみとさせていただきます。複数応募はご遠慮ください。
- ▶ご応募多数の場合は抽選とし、入場整理券（全席指定）の発送をもって抽選結果の発表に代えさせていただきます。
- ▶未就学児童のご来場・ご着席は、他のお客様のご迷惑となる場合がありますので、お断りいたします。
- ▶本演奏会には入場整理券（全席指定）が必要です。

※個人情報の取扱について

応募の際にご記入いただいた個人情報は、本演奏会の公募事務及び入場整理券の発送のみに使用いたします。

(公益財団法人)日本海事センター補助事業 / 後援:(公益財団法人)海上保安協会

お問い合わせ先 海上保安庁政策評価広報室 03-3591-6361 (平日午前9時30分から午後6時まで)